

令和5年度 三重県循環型社会形成推進会議 発言概要

日 時:令和5年8月4日(水) 13時30分~15時45分

場 所:三重県合同ビル G201会議室

出席委員:上村委員、岡島委員、片野委員、岸委員、瀧本委員、花嶋委員、光友委員

1. 開会

【枳屋環境共生局長挨拶】

- 県では、10年先を見越した長期ビジョン「強じんな美し国ビジョンみえ」と、5年間の中期の戦略計画である「みえ元気プラン」を昨年10月に策定したところ。
- 環境分野では本年4月から新たに環境共生局が発足し、「循環型社会の構築」を始め、「脱炭素社会の実現」、「生活環境の保全」といった施策に一体的に取り組んでいくこととなった。
- 中でも資源循環分野では、災害廃棄物対策やプラスチック対策の取組について、重点的に取り組んでいるところ。
- 現在の計画については対象期間が令和7年度までとなっており、来年度には次期計画に向けた議論を始めていかなければならない年となることから、ご意見いただき、今後の県の取組の参考とさせていただきたい。
- 後半では、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として急速に広がっているDXについて、資源循環分野での導入事例を紹介いただくとともに、県の取組を併せて紹介させていただく。

2. 議事

(1) 三重県循環型社会形成推進計画の進捗について

資料1及び別添資料により、事務局から説明。委員からの主な発言は以下のとおり。

【全体】

- 数値目標に対する進捗は徐々に進んでおり、それ以外の取組に関しても積極的に取り組まれていて素晴らしい
- 資料のまとめ方として、目標項目の取組とそれ以外の取組が並列して記載されており、目標以外の取組がどの施策に紐づくものかがわかりにくい点、また、目標に対する数値が単年度の実績になっているものと、複数年の延べ数になっているものが混在している点についても、まとめ方を工夫させていただきたい。

【取組方向 1】

- 市町の分別ルールがまちまちで無駄なことをしていないかという思いがあるが、これまでは焼却後に熱回収という形で進められていたのが、今は適正にリサイクルを進めましょうというのが風潮になってきているので、地域住民へそういったことの啓発を進める必要があるのではないか。

【取組方向 2】

- 国においても「成長志向型資源自立経済戦略」の中で、情報プラットフォームの構築が必要であることや、ICT や DX を活用して動静脈連携を図っていこうという施策が示されている。DX はデジタルを使って業務改革することになると思うので、国のこれらの施策も踏まえた動静脈連携の取組を進めていくべき。
- 2050 年カーボンニュートラルに向けて、産業廃棄物処理においても温暖化対策に係る設備費用が増加することが見込まれるが、そのような申請が増えて補助制度の財源が足りなくならないようにしていただけるとありがたい。

【取組方向 3】

- 産業廃棄物の不法投棄・不適正保管について、不法投棄 110 番等の案内等も聞くが、不用品回収業者も含めて無許可業者への対応について、県・市・警察とで連携した対応をお願いしたい。

【取組方向 4】

- 食ロス量については、調査方法の性質上、もう少し丸めた割合を表示したほうが良いのではないか。こういう調査をして、こういう結果であったという事がわかるような示し方をした方が良いのではないか。
- 「環境美化プロジェクト」については、大人でも十分競って参加できるものなので、これからも広く実施していただければと思う。

【取組方向 5】

- 意見無し

【モニタリング指標】

- 意見無し

(2) 話題提供

①クラウドシステム導入前の課題と導入後の改善点

株式会社吉野興産 専務取締役 光友裕昭氏

資料2により、光友様から説明。委員からの主な発言は以下のとおり。

- 廃棄物処理業者でこういうシステムを導入していただければ、業務効率化にすごくつながると感じている。
- 既に同様のシステムは安くてたくさんあるが、業務に合った使い方を整備されている方はほとんどいないため、独自のシステムを開発されていることに感心する。
- 業界として共通して使用できる部分はたくさんあるので、そこに横ぐしをいれて対応されている点に感心。

②三重県における資源循環分野のDXの取組について

三重県資源循環推進課

資料3により事務局から説明。委員からの主な発言は以下のとおり。

- ドローンの実証試験については非常に面白い取組で、是非成功させていただきたい。
- 最近ではレーザープロファイリングを搭載できるドローンもあり、木の下であっても透過で確認できるようになるため、検討いただくと良いのではないかと。
- 鳥羽市でも「ピリカ」を導入して取組を進めているところであるが、この取組をいかに地元の方に広げていくのが課題と感じている。
- 三重県では電子マネーの加入率が高いので、これらの情報を活用した取組を進めていただきたい。
- プラスチックの資源循環に係るマッチングシステムについても、食ロス対策の「みえ〜る」同様、いかに使ってもらえるようにするのが重要であるため、システムを作るだけでなく運用面で工夫を検討いただきたい。

3. 閉会

【佐藤環境共生局次長挨拶】

- 三重県循環型社会形成推進計画の進捗に対し、貴重なご意見をいただき感謝。
- 今後の進捗管理については、まとめ方も含めて、わかりやすくなるよう工夫させていただく。
- 環境共生局になって、地球温暖化対策や大気・水環境の保全とも一体感をもって取り組んでおり、これまでは環境行政の根幹は公害防止対策としての規制行政だったが、今は脱炭素や食ロス等、規制だけでは立ち行かない状況になっており、産業振興と環境保全の両立を目指しながら取り組んでいく。
- 引き続き、各委員の皆様とも意見交換しながら取り組んでまいりたい。